

令和元年度 第2回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の結果について

令和元年11月21日（木）に開催しました、公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 令和元年11月21日（木） 14時から16時
- 2 開催場所 佐賀市役所4階 4-1会議室
- 3 出席者
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会：5名
委員長：高島忠平
委員：石丸義弘、富吉賢太郎、平尾洋美、峰悦男
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団：5名
 - ・事務局：3名
- 4 議 題 令和元年度上半期 実績評価について
 - (1) 自己評価
 - (2) 質疑応答
 - (3) 採点
 - (4) 集計
 - (5) 総合評価・意見交換
- 5 会議の公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 0名
- 7 議事録（概要）

(1) 自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 2019年度上半期実績

◎判定の基準

【A】高い成果を収めている 【B】概ね良好な成果を収めている 【C】向上の余地がある。【D】見直しが必要である 【E】抜本的な見直しが必要である

評価項目	評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1)施設管理に関すること			
① 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P24～26	B	適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。
② 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1～6		利用者数は目標に対し、順調に増えている。稼働率は昨年同期よりも伸びているものの目標に達していない。
③ ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P21		TV、雑誌、新聞やホームページ、フェイスブック等様々な媒体により広報活動に努めた。フェイスブックは頻度を増やし、動画配信も行っている。またジャンル毎、地域毎のフリー情報掲載サイトへの情報発信も新たに開始した。
2)文化事業に関すること			
④ 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P7～13	A	文化事業入場者数は昨年同期より増えている。事業数は事業計画どおり進んでいる。
⑤ 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P8、12、13		児童養護施設・聖華園、金立特別支援学校でアウトリーチを実施した。地域イベント等は東与賀文化ホールで下半期に計画している。
⑥ 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P7～13		文化会館ではワークショップを3企画、アウトリーチを4カ所で行い、東与賀文化ホールではワークショップを2企画、アウトリーチを4カ所計8回実施した。
⑦ 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P7～13		オカリナ・日本舞踊・演劇のワークショップは佐賀市在住の講師、邦楽ワークショップは佐賀市出身の方を含む講師で実施した。オカリナのプレゼントは特に人気があった。また、プロの演奏家による学生向けの吹奏楽のクリニックも実施した。
3)財務に関すること			
⑧ 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P19、20	A	オフィシャルパートナー企業は昨年と同じ11社。(一財)地域創造の助成による公共ホール音楽活性化事業(公演とアクティビティ)を実施した。
⑨ 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P9～15		利用料金収入は2施設とも昨年同期より増加している。
⑩ 経費の削減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P16～18		適切な空調管理などで電気使用量の省エネルギーに努めた。
前回の委員会「2019年度の課題」		課題への対応状況	
自己評価(総合)	① 今後ともアウトリーチ、ワークショップ等により市民のニーズを収集し自主事業等に反映したら良い。	① アウトリーチは学校以外に福祉施設等でも実施。ワークショップは主に小学生を対象に実施。公演後にアンケートを行っている。	
	② 今後高校生生の演劇を実施することで、若い人がホール利用できるようにしてほしい。 ③ 自主事業で市民の中に関心のある公演事業の掘り起こし。 ④ 広報と財務はそれぞれ別分野として捉えず、良い広報が良い収益を上げるとの視点から、広報のあり方を見ていくことが、これまで以上に求められているように思う。 ⑤ 駐車場の確保 ⑥ 企業レストランの収益アップ、ブランディング。	② H28年から東与賀文化ホールで実施している。今後も継続していきたい。 ③ 自主事業終了後、アンケートを行い、意見・要望の収集に努めている。 ④ テレビ、新聞、インターネットなどの広報を公演の集客対象に合わせて行っている。 ⑤ 佐賀市と協力して取り組んでいる。 ⑥ 今年度レストラン公募しており、新たな事業者と協力していきたい。	
2019年度上半期に高い実績を収めた事項		2019年度下半期に向けた課題	
・利用料金収入が2施設とも昨年同期より増加している。 ・ベンチャーズツアーの来場者8割以上が60歳以上で満足度が非常に高かった。 ・友の会招待企画の「財津和夫」で、新規・継続会員の大幅な増加があり、1,445名の入場があった。		・2023国民スポーツ大会、全国障がい者スポーツ大会に向け、佐賀市と連携して施設整備を進める。 ・文化会館、東与賀の利用者数・稼働率の目標達成。 ・文化事業収入の増加。	

【佐賀市文化振興財団による自己評価の説明】

1) 施設管理に関すること

- ・文化会館の利用者数は、平成 30 年度上半期に比べて 2,432 名減の 206,731 名、目標の 49.81%だった。これは全国公民館大会が 8 月 27 日に予定されていたが、大雨の影響で 1 月に延期になったため。この大会は 2 日間で約 3,500 名の参加を見込んでおり、その分減っている。稼働率は、目標の 74.5%に届かず、72.12%だった。平成 30 年度上半期の 71.6%よりは 0.52 ポイント上回ったが、目標に届いていない状況。
- ・東与賀文化ホールの利用者数は、平成 30 年度上半期に比べて 5,639 名増の 28,941 名、目標の 87.7%を達成した。これは 4 月の県議選、7 月の参院選での投票場利用、新規での大会、研修会での利用が 6 団体増えたことによる。稼働率は、平成 30 年度上半期に比べて 1.81 ポイント増の 56.74%で目標に少し届いていない。
- ・保守点検、修繕は確実に実施し利用者の安全確保に努めた。

2) 文化事業に関すること

- ・文化会館の文化事業入場者数は、目標の 15,000 名に対し 65.34%の 9,801 名だった。事業の企画実施を計画的に行い、昨年より主催公演が 1 公演多かったことによる。
- ・文化会館では、アウトリーチを諸富北小学校、諸富南小学校、児童養護施設聖華園、金立特別支援学校の 4 ヶ所で実施した。若楠小学校も予定していたが、9 月にインフルエンザが広がりキャンセルとなった。
- ・東与賀文化ホールの文化事業は、目標の 2,800 名に対し 60.11%の 1,683 名だった。小学校へのアウトリーチで 4 校計 8 公演 286 名が参加したことで目標を達成した。
- ・東与賀文化ホールでは、佐賀市出身の方を含む講師による邦楽のワークショップを、吹奏楽のプロの演奏家による学生向けのクリニックを実施した。

3) 財務に関すること

- ・文化会館、東与賀文化ホールの利用料金収入は順調に推移している。
- ・文化会館の指定管理料は目標の 48.31%で経費の節減を行った。東与賀の指定管理料は目標の 50.22%で、これは消防設備の業者を変えたことによる。
- ・オフィシャルパートナーは昨年と同じく 11 社。
- ・東与賀文化ホールは(一財)地域創造の助成で公共ホール音楽活性化事業を実施した。
- ・適切な空調管理などで電気使用量の削減に努めている。

(2) 質疑応答(概要)

- 委員 自主事業の松竹大歌舞伎について、収支 420 万円の赤字は大きな額だという気がする。幸四郎、白鷗の披露襲名なら人が入るはずだが、何か理由があったか。
- 財団 この九州公演は、久留米シティプラザでの公演もあった。商圈として近く、久留米、大牟田、柳川方面など近郊での集客が難しかった。また、歌舞伎は通常 1 日 2 公演だが、何日間で何公演という縛りがあり、佐賀公演はお昼の 1 公演しかできなかった。1 公演でも経費等は半分ではないので、経費を押さえられなかった。
- 委員 ベンチャーズでこれだけ集客できていることを考えると、歌舞伎にしる、ベンチャー

ズにしろ、佐賀ではある年齢層以上の集客を考えたほうがおもしろい。

委員 自主公演で採算をとるのは簡単ではない。料金設定は他市の公演を参考にしているのか。

財団 近県で近い日程に同じ公演があればその公演とかけ離れた料金設定は難しい。大きいホールは予算が大きく割安の料金設定をすることもある。同じ料金だと収入が上がらず難しい。

委員 歌舞伎は売り手市場なのでどうしようもない。博多座で年に2回程は歌舞伎公演があるので、博多まで観に行く人も多いのでは。同じ演題を佐賀と博多でやらない方がいい。ただ出演者が幸四郎なら観たいという人は多いのでは。

委員 配役を見ると入りそうだが、2回公演でなく1回公演がネックだったのかもしれない。

委員 8月の大雨のとき、文化会館は大丈夫だったか。

財団 大雨時は文化会館の前は20センチの水が溜まった。イベントホールに若干水が流れ込んだ。また初めて避難者が来られた。今後もこういう可能性はあると思う。

委員 地下に電気系統はなかったか。

財団 地下には電気系統はなかった。イベントホールは物の搬入場所が低い。シャッターを下ろしていたがそこから雨が入ってきた。

委員 公の施設で大きい施設は、避難者への対応を考えておかないといけないと思う。

財団 避難された方は、公民館に行くより文化会館に来た方が安全と言われていた。

委員 災害時に公の施設は避難所になり得る。しかし東北大震災では文化施設30何カ所かのうち27カ所で被害を受けた。

委員 大雨の時に三日月のホールに高齢者が避難したらトイレが全て和式で介助者が座らせられなかった。トイレを洋式化していないと避難所にできない。意外と文化会館などは和式トイレが多いようだが。

委員 東与賀文化ホールも和式トイレ。

委員 以前は衛生上の問題で便座に直接座らないようにというのがあった。

委員 体の不自由な人を考えると和式トイレにはさせられない。

財団 今年度イベントホールのトイレの洋式化をするが、市と協議して、3階、2階、一般の来客の方が使われるトイレの洋式化を優先的にしていきたい。

委員 福祉施設のアウトリーチにはどういう意見や要請が出るか。

財団 金立特別支援学校では、保護者会、先生方と話をし、生徒の体の状況を確認し、参加できそうなものを聞き取りした。演奏は難しいがリズムや音を出せるとのことで、打楽器をメインにした。福祉施設は、要望の聞き取りをしてから内容を決めている。

委員 全体的に段々改善されている。

財団 行く度に喜んでもらえるのが励みになる。

委員 アウトリーチは、その施設の利用者、職員、家族とかが対象か。

財団 保護者の方も対象になる。福祉施設は入所者と職員が主な対象者になる。小学校のアウトリーチは、自治会に声掛けをして、祖父母の方に先生を通じて案内をしている。

委員 今度駅の北口から文化会館まで、歩いて行けるようにするのはいいと思う。

財団 片側2車線を1車線にして。

- 委員 一時期実験があったが、あのようになれるのか。
- 財団 あれをベースにして計画されている。
- 委員 植栽やベンチを置き、話して、散歩をして、気づいたら文化会館というようにすると。
- 委員 歩かない佐賀の人がそれで歩くのかという気がする。
- 委員 快適空間になると思う。期待している。
- 委員 佐賀の人の考え方や習慣を変えないといけないところもある。
- 委員 植栽がほしい、木を植えないで、落ち葉が大変と色々な意見がある。造園業者さんがそこを言ったら何もできないと。アリーナと文化会館と相乗効果でいい空間になれば。
- 委員 施設管理の東与賀文化ホール利用者数の目標は、基準の 27 年度が 24,726 人なのに、H30 年度は 3 万 2,000 人、R1 年度は 3 万 3000 人という目標なのか。
- 財団 指定管理を受ける際に出す 5 年計画では、27 年度が基準年になるが、少しずつ目標を上げて出している。それに基づいている。
- 委員 この目標が高すぎたのかもしれない。
- 委員 今のご時勢で右肩上がりの目標をずっとというのは、状況判断が難しく、ありえない。
- 財団 アウトリーチやワークショップは人数にこだわらず機会を提供する。人数は少なくても当たり前。その分大きなイベント、お客さんが入りそうな公演は、できるだけ数値を上げるという考え方でしている。
- 委員 アウトリーチは少ないのが当たり前。公民館でにわか公演をしたときに高齢者が結構観に来て、笑いのつぼを知っているお客さんが多い。若い人たちは見かけのところで笑う。高齢者と若い人たちが一緒になって観ることも必要では。

(3) 採点 (4) 集計 (5) 総合評価

- 委員 市民の協力や呼びかけなどこうあったらいいなというのではないか。
- 財団 ボランティア育成をし、それが利用客に広がればと思うが、そこまでいっていない。
- 委員 応援団のようなものですね。
- 財団 市民芸術祭も認知されていない。周知しているが不十分。繰り返すしかない。SNS と紙の連携、また報道機関に取材にきてもらいたい。口での広がりにつながればと思う。
- 委員 文化の捉え方もある。生活の中で、美術館や文化会館での催し物がどうでもよくなる時がある。それを打ち破るには何かがあるか。考えさせられたのはラグビーワールドカップ。最初はたいしたことないと思っていたが、だんだん盛り上がりが大きくなった。文化に置き換えると何かあるのかと。まだ何かあるかわからないが。日常生活の中で文化から離れている人達をいかに呼び込むかというときに高齢者じゃないかと思う。
- 委員 ラグビーのトップクラスの選手が来てすごい試合を観せるだろうから 1 度は見たいと、大分にラグビーを見に行った。それを芸術に置き換えると、最高のものを見せれば来るのでは。もちろんお金の問題はあるが。
- 委員 最高のものを見せれば来るということではなく、もう 1 つのしかけみたいなもの、生きていくために必要なものではないか。災害とかでくさくさしていた時期にラグビーがあったと思う。
- 委員 希少価値があるので、それに煽られた気もする。ラグビーは大分、熊本、福岡であったが、佐賀でも久留米でもあったら、行っていないかもしれない。

委員 サガン鳥栖の試合も、サッカーが好きというより雰囲気が好きで行く人、サガン鳥栖が負けても楽しかったと言って帰ってくる人もいる。

委員 サガン鳥栖のスタジアムには高齢者や夫婦連れなどこんな人がという人がいっぱい来ている。

委員 スポーツの持つエネルギーのようなものが文化にあったら面白いと思う。

委員 ラグビーを見た人はみんな力が入ったと言っていた。

委員 ラグビーはまだアマチュア的な良さがある。プロ化されてもアマチュアが持つ一発勝負のエネルギーは、文化ではできそうな気がする。

委員 芸術祭はどのぐらい人が来られたか。

財団 12,900 人来られた。昨年が 12,800 人。

委員 結構にぎわっていた。3日間で1万人はたいしたもの。

財団 高校にもずいぶん協力していただいた。全国レベルの活水高等学校吹奏楽部も来たが、勉強になるから見たい、聞きたいというのがある。

委員 高校のブラスバンドは、人がたくさん集まるのでは。高校生はもとより、家族も。

委員 祖父母に召集がかけられ、しかたなく行くが、観ているとだんだん面白くなる。人が集まりたいというしかけが文化会館ではなかなか難しいかもしれないが。

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		150	120	80.0	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	50	42	84.0	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	50	38	76.0	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	50	40	80.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に適切に対処されていると思う。 利用者の満足度が高いサービスの提供、稼働率、利用者数の増加について、今後も目標達成の努力を。 				
2) 文化事業に関すること		200	166	83.0	A
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	50	42	84.0	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	50	44	88.0	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	50	40	80.0	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	50	40	80.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> よか音コンサートについて、作曲家とドイツ等ヨーロッパの歴史と併せた解説など今までにない企画で良かった。 委員会発足時に比較して順調に実績をあげていると思います。 				
3) 財務に関すること		150	124	82.7	A
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	50	42	84.0	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	50	40	80.0	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	50	42	84.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> 公益（財団）法人への寄附に対する税制上の優遇措置の利用促進（寄附の獲得）を検討されては。 				
◆総合		500	410	82.0	A
◆総合評価					
高い実績を収めた事項			令和元年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> アウトリーチ、ワークショップに努められ、市民の意見を事業に取り入れられている。自主事業への努力が見られる。 自主事業は結果として赤字であるが、多様に催され市民の期待には応えたところがある。 			<ul style="list-style-type: none"> 両会館とも稼働率の向上にあと少しの努力も必要だが、文化と触れ合う機会を与えるため、入場者数（利用者、稼働率の向上）にとらわれ過ぎないようにする。 高齢化が進むなか、それらシニア世代が生活の中で親しめる事を基盤に持ってほしい。 		